

建 材

「鋼管ポール事業」堅調

JFEシビル

鉄骨より高い施工性 プロ野球球場でも実績

JFEシビル(社長・藤井善英氏)が展開する鋼管ポール事業が堅調だ。鋼管ポールを活用した事業でゴルフ練習場や野球場などで着実に実績を積み重ねている。直近ではプロ野球のファーム球場での実績もあり、本件では照明柱も設置。会社ではさらなる拡販に注力していく方針だ。

同社の展開する鋼管ポールの防球ネット用鋼管ポール「キャンパスボール」や野球場・運動場

「セーフティボール」、野球場などの大型照明柱といった豊富な商品ラインナップを有する。

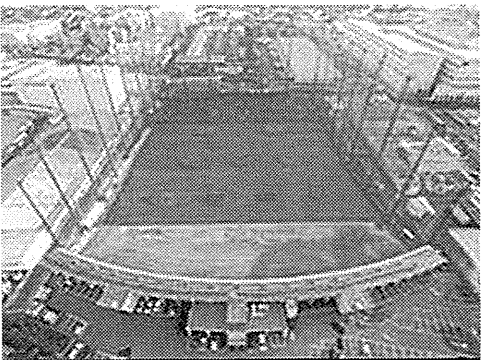
「ナイスボール」は大手ゴルフ場運営企業

(山梨県都留市)などの防球ネットポール工

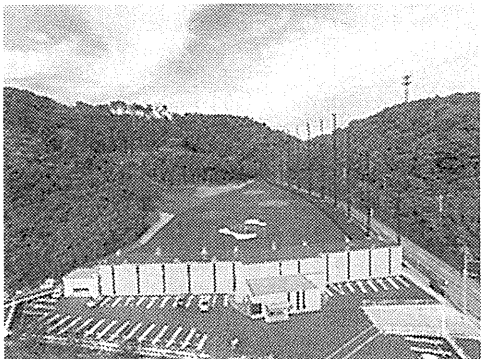
事を受注している。コンクリート製ポールでは難しい高さ60m、ポール間隔最大25mが可能な特長を活かし、近年のゴルフクラブやポールの進歩による飛距離アップにも対応できる。

従来の鉄骨トラス支柱に比べてもスリムで場所を取らないため、狭い場所でも設置可能で工期も短くメンテナンスも容易だ。耐候性鋼材やめっき仕様とすれば塗装メンテナンスの負担も軽減できる。

「キャンパスボール」は大学や高校、中学などから毎年数件を受注している。



ポールを納入した東大阪
ゴルフセンター



ポールを納入した都留グ
リーンゴルフ